

国土交通省説明資料

令和元年11月7日

首里城の概要

- ・ 首里城は、全国で17ある国営公園のうちの1つ、国営沖縄記念公園に設置された施設
- ・ 沖縄の本土復帰記念事業の一環として、戦災によって失われた貴重な歴史的文化遺産を復元

【国営沖縄記念公園(首里城地区) 概要】

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| ・事業着手 | 昭和61年度 | ・面積 | 4.7ha |
| ・供用開始 | 平成 4年度(全園開園 平成31年2月) | | (うち、有料区域1.4ha ※県による管理区域) |
| | (今回焼失した正殿、北殿、南殿・番所等は当初開園区域) | ・全体事業費 | 260億円 |

【平面図】



【全景】





復元後の首里城正殿

【主な経緯】

- | | |
|---------------|---|
| 昭和61年度 | 首里城跡約 4 haの国営公園整備が閣議決定 |
| 昭和61～
63年度 | 首里城正殿設計委員会及び専門部会（木造、瓦類、彩色、彫刻）の開催 |
| 平成元年度
4 年度 | 首里城正殿等の建築工事起工
首里城正殿等が一部開園
(1.7ha) |
| 12年度 | 九州・沖縄サミットの
社交夕食会が開催
首里城跡が世界遺産登録 |
| 30年度 | 首里城地区全園開園 (4.7ha) |



首里城正殿設計委員会の開催



木工事の状況



彩色工事の状況

首里城正殿実施設計委員会の概要

- 復元の形態や手法等を検討するため、昭和61年度から昭和63年度にかけて、学識経験者等からなる「首里城正殿実施設計委員会」を設置。
- 委員会の下に4つの専門部会を設け、木材の調達や職人の確保等の技術的な課題を検討。

＜首里城正殿実施設計委員会＞

○三好 勝彦	造園	財団法人公園財団理事
稲垣 榮三	建築	明治大学教授
金多 潔	建築	京都大学教授
鈴木 嘉吉	建築	奈良国立文化財研究所長
高良 倉吉	歴史	浦添市立図書館長
嵩元 政秀	考古	沖縄考古学会長
西村 貞雄	彫刻	琉球大学教授
平野 侃三	造園	東京農業大学教授
又吉 真三	琉球建築史	沖縄県文化財保護審議会長



首里城正殿設計委員会の開催

＜木造部会＞

○鈴木 嘉吉	建築	奈良国立文化財研究所長
天野 輝久	建築構造	琉球大学助教授
金多 潔	建築構造	京都大学教授
又吉 真三	琉球建築史	沖縄県文化財保護審議会長
山里 銀造	建築	沖縄県文化財保護審議会専門委員

＜瓦類部会＞

○伊原 恵司	文化財修復	東京国立文化財研究所修復技術部長
小渡 清孝	地域史	沖縄県地域史協議会会員
高良 倉吉	歴史	浦添市立図書館長
嵩元 政秀	考古学	沖縄考古学会長
照屋 善義	陶芸	沖縄県工業試験場窯業室長
當真 嗣一	考古	沖縄県教育庁文化課主幹
宮城 篤正	陶芸	浦添市工芸美術館準備室長

＜彩色部会＞

○稲垣 榮三	建築史	明治大学教授
小西 暁也	漆芸	株式会社小西美術工藝社代表
高良 倉吉	歴史	浦添市立図書館長
名渡山 愛擴	染織家	琉球紅型事業協同組合理事長
平野 侃三	造園	東京農業大学教授
前田 孝允	漆芸	沖縄県工芸産業振興審議会委員

＜彫刻部会＞

○田邊 三郎助	美術史	武蔵野美術大学教授
西村 貞雄	彫刻家	琉球大学教授

○は委員長、部会長

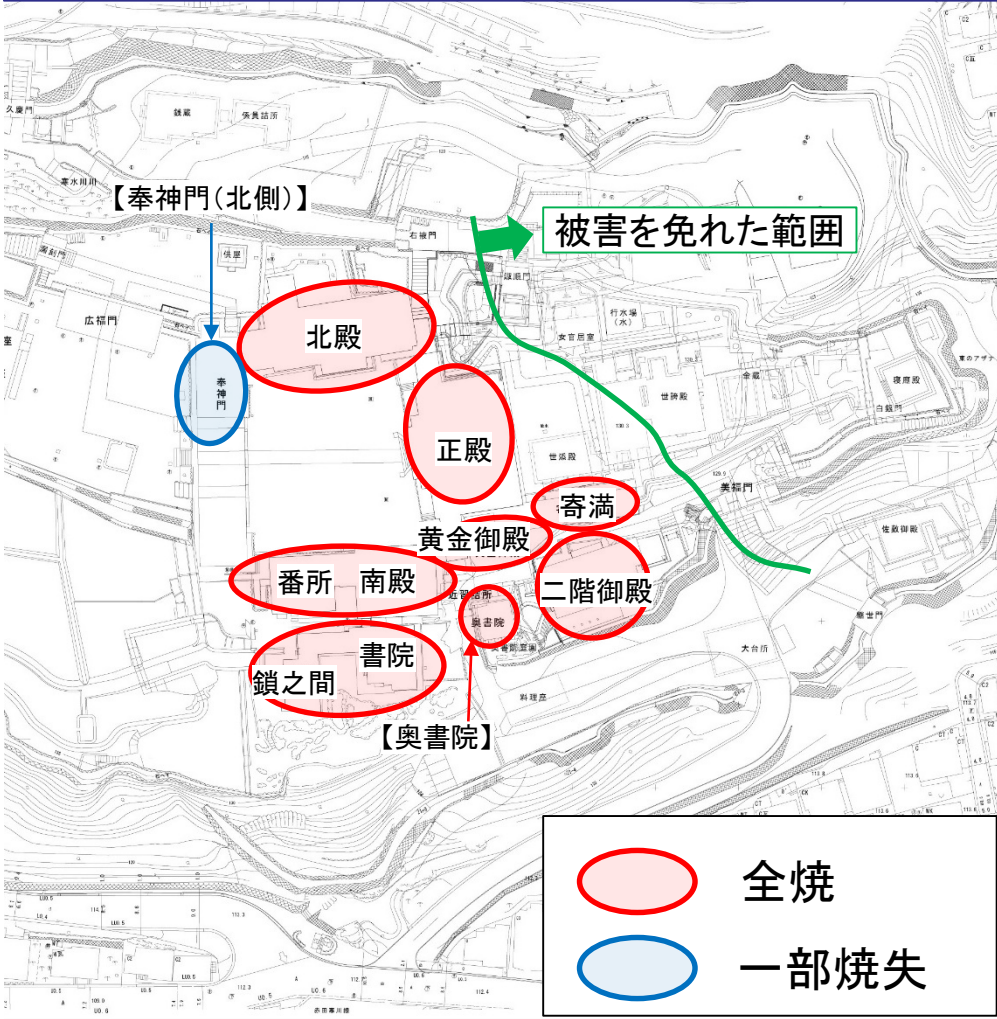
※昭和63年度のもの

- 正殿等の復元根拠資料が存在する18世紀以降の首里城を復元。
- 復元に当たっては、施設ごとに復元タイプを分類。
(特Aタイプの正殿は、躯体を含む建物全体を木造で復元)



タイプ	大分類	定義
特A	復元	遺構、図面、古写真、配置図、事例、聞き取りの成果等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法でより精度を上げて内外部とも復元した建築物。
A	復元	遺構、古写真、配置図、事例、聞き取り等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法で内外部とも復元した建築物。
B	準復元	遺構、古写真（内部写真含む）、配置図、事例、聞き取り等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法で内外部とも復元した建築物。間取りについては、一部想定している。
C	外観復元	往時の間取りは不明であるが、遺構、古写真、配置図、事例等の根拠資料に基づいて外部を復元し、内部は公園機能を重視した建築物。
D	外観想定復元	建物を写した古写真は確認されていない。遺構や配置図、古絵図、事例に基づいて外部を想定復元し、内部は公園機能を重視した建築物。
E	外観再現	建物の位置や規模等を確認できる遺構や古写真はない。配置図、古絵図、事例に基づいて外部を再現し、内部は公園機能を重視した建築物。
F	平面表示	建物の位置や規模等を確認できる遺構や古写真はなく、配置図と古絵図等で建物の雰囲気はわかる程度。建物の輪郭のみを平面的に表示。

- 今回の火災により、正殿を含む計9施設が焼失。
- これらの施設の当時の工事費用の総額は約73億円。



施設名	供用年	構造	当時の 工事費用
せいでん 正殿	平成4年	木造2重3階建	33億円
ほくでん 北殿		鉄筋コンクリート造 (外観木造)	21億円
なんでん・ぱんどころ 南殿・番所			
ほうしんもん 奉神門			
しよいん さすのま 書院・鎖之間	平成19年	木造平屋建(地下部: 鉄筋コンクリート造)	19億円
くがにうどうん 黄金御殿	平成26年	鉄筋コンクリート造 一部木造2階建 (外観木造)	
ゆいんち 寄満		木造平屋建	
おくしよいん 奥書院			
にーけーうどうん 二階御殿	平成31年	1階鉄筋コンクリート造 2階木造	

※首里城地区の全体事業費:約260億円
(工事費、用地費及び補償費、測量・設計費)

当時の工事費用の総額:約73億円